

理不尽社会に生きる若者は.....



京都中央労働学校は “学びごたえ主義”

第130期京都中央労働学校・開校式

日時 6月27日(金)午後6時受付開始
会場 京都学習会館(堀川丸太町一筋目上ル)

申込先は.....
京都労働者学習協議会
〒602-8147
京都市上京区堀川丸太町西一筋目上ル
『京都学習会館』内
電話(075)841-8141
FAX(075)821-3665
受付時間は10時~20時



理不尽社会に
生きる力を
闘う力を
労働学校で獲得しよう。

「貧富の格差は広がりすぎていく」。英フィナンシャル・タイムズ紙が実施した世論調査によれば、世界中でそんな認識が広がっている。グローバル化が大金持ち層を生む中で、格差は各地で政治論争の種になっているという。

日本でも小林多喜二の『蟹工船』が静かなブーム。「俺達には、俺

達しか味方が無えんだ」と団結にめざめる工員たちの姿に共感を覚える若者が増えているようだ。

「働かない人いない」国と登場人物に言わせたソ連が崩壊して17年。勝利者の資本主義世界で、格差への不満が渦巻く。そんな変転を地下の多喜二はどっしり見ながら、「日経」夕刊「20080521」

前出の島村教授は、『蟹工船』と今をこう結びつけて、さらに結論づける。

「蟹工船の乗組員は、絶望的な状況にあるのに諦めません。なんとかが脱却しようと、一縷(いちる)の望みを残す形で終っています。それが、どんな厳しい状況でも投

げ出してはいけない」と、多くの人を励ましてくれたのだと思う。生きる希望を見つけられない若者に、多喜二の小説が生への道筋を与えたのだと思います。

いちど忘れられがち、再び力を吹き返すのは、ホンモノだけである。 (『週刊新潮』5/20)

第130期京都中央労働学校 募集要項

申し込みの手続きは「申込用紙」に必要事項を記入し、受講料をそえて申し込んでください。
募集の定員は、各コース60名です。(定員になり次第切ります)
講義時間は、午後6時30分~9時(休憩も含まれます)

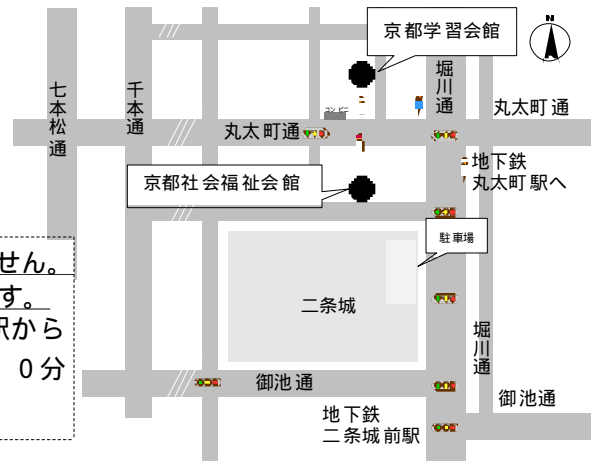
総合コースは、16回のうち11回以上出席し受講料を納入された方に修了証書をお渡します。それ以外のコースは、8回のうち6回出席で修了証書をお渡しします。

テキストは、経済学コース以外はレジュメを準備しております。経済学コースは、マルクス著『資本論』新日本新書 第2、第3、第4分冊を使います。注文の方は、申込用紙に記入を。受講料は、総合コースは、10,000円、それ以外は、8,400円です。金額に消費税が含まれています。

各コースの会場は、『京都学習会館』(上京区堀川丸太町西一筋目上ル)です。

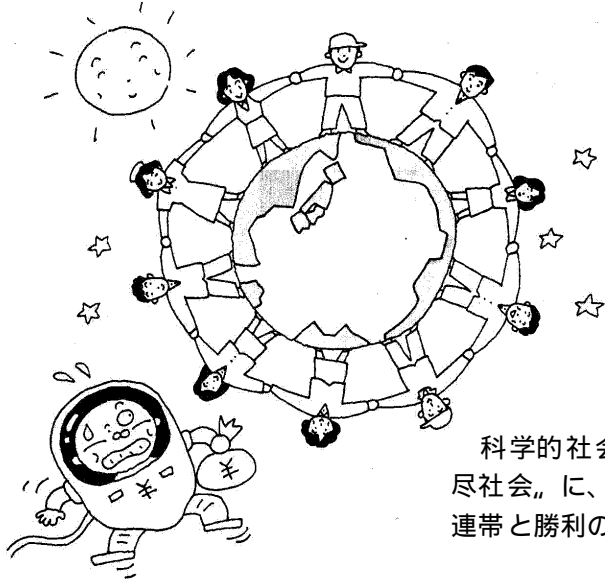
電話(075)841-8141
FAX(075)821-3665

二・四輪共に駐車場はありません。
二条城市営駐車場へお願いします。
地下鉄丸太町駅・二条城前駅から『京都学習会館』まで歩いて10分以内です。



キリトリ

| 第130期京都中央労働学校 申込用紙 | | | |
|--------------------|--------|----------------|-----|
| 申込みコースチェック | 総合 | 世界観 | 経済学 |
| はたらく権利 | | | |
| ふりがな | 性別 | 年齢 | |
| 氏名: | 男・女 | 才 | |
| 現住所 | | | |
| 職場・学園 | (全国単産) | | |
| 労働組合 | | | |
| 電話: 職場() | - | 自宅() | - |
| 『資本論』注文チェック | | 第2・第3分冊を注文します。 | |



科学的社会主義を学べば“理不尽社会”に、生きる力、闘う勇氣、連帯と勝利の必然性が見えてくる。

これまでと同じに、じっと我慢していても……何も変わらない。

初めての仲間に最適な

総合コース

わたしたちの“人生観”、“ものの見方 考え方”を学びます。

- 7月01日(火) 第01課 君は「時代閉塞の現代」をどう生きるか
- 7月04日(金) 第02課 人生を切りひらく“ものの見方・考え方”
- 7月08日(火) 第03課 「自己責任」とは、「自立する」とはどういうことか
- 7月11日(金) 第04課 社会と歴史にも“法則”がある
“仕事”と“生活”に直結……経済のしくみを学びます。

- 7月15日(火) 第05課 “仕事”とは何か
- 7月18日(金) 第06課 “富”が集中するしくみ
- 7月22日(火) 第07課 競争とはなにか
- 7月25日(金) 第08課 “景気”の良い悪いとはどういうことか
過去は未来へ向かっての行動の条件である……歴史を学びます。

- 7月29日(火) 第09課 日本に戦争の時代があった
- 8月01日(金) 第10課 何が見える“敗戦から63年”の歴史
女性も男性も“人間らしく生きるとはどういうことか”を学びます。
- 8月05日(火) 第11課 ジェンダーを歴史の中で考える
- 8月08日(金) 第12課 どうしたら“男女平等”が実現できるか
人間らしく働くために……働くルールと団結を学びます。

- 8月12日(火) 第13課 君にとって労働組合とは
- 8月19日(火) 第14課 《基礎知識》働くためのルール
変革の波が世界に広がっています。その実際とエネルギーを学びます。
- 8月22日(金) 第15課 数字から見える 世界と日本の現実
- 8月26日(火) 第16課 世界が大きく変わろうとしている

いま、職場から連帯を

学びます。

科学的社会主義を深く学ぶ 3つの専門コース

科学的社会主義の原典をベースに、世界観を学び深めます。

科学的社会主義の世界観コース 第1部 世界をどう見るか

- 6月27日(金) 全コース統一開校式
- 7月04日(金) 第1課 青年の生きがいと世界観
- 7月11日(金) 第2課 哲学の根本問題、唯物論か観念論か
- 7月18日(金) 第3課 機械的唯物論とヘーゲル弁証法
- 7月25日(金) 第4課 人間の認識について……反映論と不可知論
- 8月01日(金) 第5課 世界の物質的統一性と時間・空間
- 8月08日(金) 第6課 生命と進化をどう考えるか
- 8月22日(金) 第7課 平等、自由と必然性
- 8月29日(金) 第8課 人間の実践について考える

マルクスの成熟した「科学の目」で叙述され、科学的社会主義の理論の全体が凝縮された『資本論』を学びます。

経済学コース …『資本論』を読む 第2部 剰余価値生産の増大とは

- 6月27日(金) 全コース統一開校式
- 6月30日(月) 第1課 労働時間の延長による剰余価値の生産
- 7月07日(月) 第2課 生産力の高まりによる剰余価値生産 協業……労働の結合
- 7月14日(月) 第3課 分業とマニファクチャ……機械制工業への過度期の役割
- 7月28日(月) 第4課 機械と大工業……独自の資本主義的生産様式の典型
- 8月04日(月) 第5課 絶対的剰余価値と相対的剰余価値の生産
- 8月11日(月) 第6課 賃金とはなにか
- 8月18日(月) 第7課 賃金の形態……時間賃金、出来高賃金
- 8月25日(月) 第8課 …剰余価値の増大は“労働者の豊かさ”に直結するか？

“強奪の資本主義”と言われる日本、そこで働く労働者の“働くルール”を学びます。

はたらく権利コース 第3部 労働法をめぐる攻撃と闘い

- 6月27日(金) 全コース統一開校式
- 7月01日(火) 第1課 “労働ビッグバン”と“ディーセント・ワーク”
- 7月08日(火) 第2課 「解雇の自由」攻撃と反撃 “整理解雇の4要件”の重要性
- 7月15日(火) 第3課 人間版・“カンバン方式”の実態 急増する不安定労働者
- 7月22日(火) 第4課 タダ働き、過労死の蔓延は“非常事態” 過労死・過労自殺
- 7月29日(火) 第5課 労働時間はどこまで弾力化できるの 裁量労働制、フレックスタイム
- 8月05日(火) 第6課 すすむ“労働と生活の保障・救済体制”の崩壊 セーフティ・ネット
- 8月12日(火) 第7課 労働契約法は職場をどう変えるのか
- 8月19日(火) 第8課 職場で活かす“権利力”……まとめ